

文教大学

なかじま しげる
中島 滋

文教大学学長



近藤研至前学長の任期満了に伴い、4月1日付で中島滋健康栄養学部教授(前副学長)が文教大学第13代学長に就任した。

中島新学長は、1956年新潟県生まれ。1979年上智大学理工学部化学科卒業、1981年同大学大学院理工学研究科化学専攻博士前期課程修了、1991年理学博士。聖カタリナ女子大学、文教大学女子短期大学部等を経て、文教大学健康栄養学部教授(同学部長)、2017年、文教大学副学長。専門領域は、栄養学、生化学、衛生学であり、主な著

書(共著)は『Handbook of Seafood Quality, Safety and Health Applications』(402-413頁)『Role of marine foods in prevention of obesity』(2010年)である。主な受賞歴は、1992年度カトリック学術研究奨励賞、2015年度厚生労働大臣表彰である。

文教大学の建学の精神は「人間愛」である。中島新学長の目標は、人間愛を基盤とし、高い理想をもって私利私欲なく社会に貢献する人材、そして、持続可能な開発目標(SDGs)に貢献する人材を育成することである。

中央大学

かわい ひさし
河合 久

中央大学学長



5月27日付で河合久教授が学長に就任。河合新学長は1958年東京都生まれ。1981年中央大学商学部卒業。1983年同大学大学院商学研究科博士前期課程修了。1996年本学商学部に着任。助教授、教授、学部長を務め、副学長、国際経営学部開設準備室長を経て、2019年より国際経営学部教授。同学部長も務めた。

専門は会計情報システム論。著書に『コンピュータ会計基礎「改訂版」』(創成社、2021年)など。また、日本管理会計学会理事・常務理事、日本会計研究学会評議

員、日本原価計算研究会常任理事、県立岐阜商業高等学校「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業」運営指導委員、中央大学附属高等学校「スーパーサイエンスハイスクール事業」運営指導委員長、大学コンソーシアム八王子副会長などを歴任。

本学の豊かなリソースを地域や様々なコミュニティに開放、活用し、交流を図ることで、学生が常に社会と相互に研鑽しながら社会に応用する力を養う。確かな未来につながる学びの実現に向け、さらに「開かれた中央大学」をめざす。

福岡女学院大学

かたの みつお
片野 光男

学校法人福岡女学院 理事長



十時忠秀前理事長の任期満了に伴い、6月1日付で片野光男看護大学長が理事長に就任した。1949年大分県生まれ。1974年九州大学医学部を卒業し、同第一外科へ入局。その後、九州大学附属病院第一外科、佐賀医科大学（現・佐賀大学医学部）消化器外科などに勤務。米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）留学を経て、1983年佐賀医科大学助手となり、1989年同大学講師、1999年九州大学大学院医学系研究科腫瘍制御学分野教授。2003年～2015年九州大

学大学院医学研究院先端医療医学部門教授、2011年～2014年九州大学大学院医学研究院長・医学部長・医学部長、2014年九州大学医学研究院附属総合コホートセンター長などを務める。2015年福岡女学院看護大学学長就任、2021年より同学院理事長兼務。理事長就任式では、「予想困難な変化を続ける社会に対応しつつ、さらなる社会貢献を希求する開かれた学院づくりに邁進したい」と抱負を述べた。

慶應義塾大学

いとう こうへい
伊藤 公平

慶應義塾長



長谷山彰前慶應義塾長の任期満了に伴い、5月28日付で伊藤公平理工学部教授が慶應義塾長に就任した。

新塾長は1965年生まれ。小学校より慶應義塾に学び、幼稚舎、普通部、慶應義塾高等学校を経て1985年に慶應義塾大学理工学部に入學、1989年に同学部計測工学科を卒業。その後カリフォルニア大学バークレー校工学部でPh.D.を取得した。1995年に慶應義塾大学理工学部助手に就任。同学部において専任講師、助教授を経て2007年に教授に就任し、2017年4月～2019年3月には学部長、

同大学理工学研究科委員長を務めた。専門領域は固体物理、量子コンピュータ、電子材料、ナノテクノロジー、半導体同位体工学で、学外ではJSTさきがけ研究領域「量子の状態制御と機能化」領域総括、文部科学省Q-LEAP 量子コンピュータ分野プログラムディレクターなども務めている。就任にあたり、全社会の先導者としての理想を追い求め、自分や日本が置かれた現状を理解し、自分のため、家族や仲間のため、地域のため、国のため、世界のために為すべきことを定義して実行する学生の育成に意欲を示している。

駒澤大学

かがみ ようこ
各務 洋子

駒澤大学学長



長谷部八朗前学長の任期満了に伴い、2021年4月

1日付で各務洋子グローバルメディア・スタディーズ学部教授が新学長に就任した。

各務新学長は、1959年東京都生まれ。米アリゾナ州立大学サンダーボード国際経営大学院修士課程修了後、米国の民間企業でコンサルティング業務に従事。その後、国際基督教大学大学院行政学研究科行政学専攻博士課程修了。博士(学術)。1998年駒澤大学経営学部講師として着任。2004年グローバル・メディア・スタディーズ学部設置準備室長、2015年

同学部長、2019年学長補佐を歴任。

専門分野は経営戦略論、グローバル経営論。

日本経営学会、日本ベンチャー学会などに所属している。さらに、総務省電気通信事業紛争処理委員会委員、独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会審査委員なども務めた。

就任時の公約として、2つの柱「DXによる組織の在り方や大学運営の効率化の推進」、「学生、教職員のダイバーシティを尊重する『個性を活かした柔軟な大学の実現』」を掲げている。

学習院女子大学

おおも としゆき
大桃 敏行

学習院女子大学学長



神田典城前学長の任期満了に伴い、4月1日付で大桃敏行教授が学習院女子大学学長に就任した。任期は4年。

1954年新潟県生まれ。1977年東北大学教育学部卒業。1983年東北大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。1997年博士(教育学)東北大学。

東北大学大学院教育学研究科教授、東京大学大学院教育学研究科教授、東京大学教育学部附属中等教育学校長、東京大学大学院教育学研究科長・教育学部長を経て、2017年4月より学習院女子大学国際文化交流学部教授。専

門は教育行政学で、日本教育行政学会会長などを務めた。

近年の著書・訳書に『日本型公教育の再検討 自由、保障、責任から考える』(共編著、2020年岩波書店)、『アメリカ教育改革のポリティクス 公正を求めた50年の闘い』(共訳、2018年、東京大学出版会)など。

趣味はウォーキング。本学のキャンパスは自然に溢れていて、時折聞こえる野鳥の声も楽しみの一つとしている。

グローバルで多様性に関わられた学びの空間を基本コンセプトとして、本学の教育の一層の充実に取り組んでいる。

実践女子大学

なんば まさのり
難波 雅紀

実践女子大学

実践女子大学短期大学部学長



城島栄一郎前学長の任期満了に伴い、4月1日付で難波雅紀文学部英文学科教授が実践女子大学、同短期大学の第16代学長に就任した。任期は4年間。

難波新学長は1959年神奈川県厚木市生まれ。1983年学習院大学文学部英米文学科卒業後、1988年上智大学大学院文学研究科英米文学専攻博士前期課程を修了。1997年に実践女子大学文学部英文学科助教に就任し、2003年同教授。以降、学科主任、教務部長、文学部長、学園理事、副学長を歴任した。専門分野

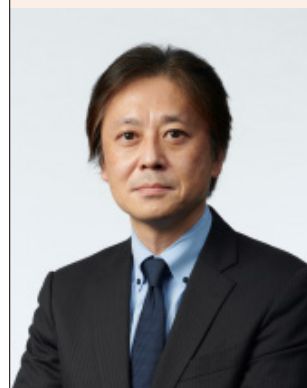
はアメリカ文学・文化で、著書(共著)は『アメリカの嘆き―米文学史の中のピューリタニズム』(松柏社1999年)、『英米文学のリヴァーブ―境界を超える意志』(開文社出版2004年)ほか。

難波新学長は、教育における社会連携の強化とグローバル化の進展を重点項目に掲げ、オンキャンパスからオフキャンパスへと運動していく学習活動で培われた実践力によって「持続可能な未来を切り開いていける人材を育成したい」と抱負を語っている。

関東学院大学

こやま よしなり
小山 巖也

関東学院大学学長



小山巖也経営学部教授が4月1日付で学長に就任した。小山新学長は1967年、横浜市出身。一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位修得退学。その後、山梨学院大学商学部助教授を経て、2001年関東学院大学経済学部に着任、現在に至る。本学では、副学長、経営学部長、学生生活部長など要職を歴任。

専門分野は経営学、CSR論。主な著書として、『CSRのマネジメントイシューマイオピアに陥る企業』『問いからはじめる現代企業』など。

関東学院大学は、「一人になれ

奉仕せよ」の校訓のもと、キリスト教の精神に基づく人材育成を行う、神奈川県内に3つのキャンパス、11学部14学科8コース、大学院5研究科を擁する総合大学。2023年には横浜市の都心部に横浜・関内キャンパスの開校を予定しており、学問と社会を繋ぐ「社会連携教育」の推進を図る。

学長自らがモチベーターとなり、総合大学ならではの幅広い研究力の発信、学部や研究の垣根を越えた教員・学生間の交流をもとに、社会課題を解決する新しいプロジェクトを生み出す仕掛けをつくり、大学の更なる発展を牽引する。

桃山学院教育大学

なかにし まさと

中西 正人

桃山学院教育大学 学長



梶田叡一学長の退任に伴い、後任として中西正人副学長が学長に就任した。

中西新学長は1951年三重県生まれ。1974年京都

大学経済学部卒業後、大阪府庁に入庁。総務部行政改革室長、人事室長、理事兼教育次長、総務部長、教育長など行政職の中枢を歴任。総務部長、教育長時代には橋下徹府知事のもと行財政改革や教育行政に携わった。教育基本条例制定時には知事とも真正面から論争し「もの言う教育長」として注目を集めた。2013年に大阪府庁を退職後、大阪府住宅供給公社理事長、大阪

教育大学理事・副学長を経て、2018年桃山学院教育大学副学長に就任した。この間ユネスコ国内委員等を務める。

教育大学学長として、人間教育の理念のもと、人の痛みがわかり、仲間と力を合わせて、苦しい時でも前を向いて進むことができる教育者の育成を目指す。

主著には『大阪の教育行政―橋下知事との相克と協調―』がある。

趣味は、以前は日本百名山登りやフルマラソンにも挑戦したが、最近はウォーキング、スロージョギング程度。気さくな人柄の愛飲家。

大阪医科薬科大学

さかの こういち

佐野 浩一

大阪医科薬科大学 学長



歴史をさかのぼること約100年、1927年に日本初の五年制高等医学専門学校として開設した大阪医科大学と、1904年に大阪道修薬学校として開設した大阪薬科大学が2021年4月に統合され、医療系総合大学を目指し大阪医科薬科大学が新たなスタートを切った。

学長に就任した佐野浩一は1954年大阪府生まれの医師。1984年大阪医科大学大学院医学研究科単位満期取得退学、渡米して全米エイズ研究プロジェクトに参画するとともに大学改革を目的に帰国。1997年

に大阪医科大学教授に就任。以後、研究機構長、看護専門学校長等を歴任し、看護学部の設置にも携わった。2003年より学校法人において理事、副理事長を経て現在に至っている。専門分野は微生物学・感染制御学で、世界的に用いられている低濃度食塩水電気分解産物を用いた消毒装置の開発やサイレントエイズの発見にも参画した。

「多職種連携教育」を重視し、リベラルアーツとリサーチマインドを身につけたチーム医療を実践できる優秀な医療人の育成を「恕」をもって目指したいとの抱負を語っている。

流通経済大学

うえの ゆういち
上野 裕一

流通経済大学 学長



4月1日付で流通経済大学学長に就任した。任期は3年。上野新学長は1961年山梨県生まれ。1984年日本体育大学体育学部体育学科卒業。1986年同大学大学院体育学研究科修士課程修了。1990年本学に社会学部専任講師として着任後、1999年同学部教授、2006年スポーツ健康科学部教授、2011年同学部長、2012年学長補佐を歴任。また、本学を運営する学校法人日通学園において2011年に評議員、2017年に理事を務め、現職へ。2013年弘前大学大学院医学研究科博士課程修了、博士(医学)取得。専門はコーチ学(ラグビー)。

本学は5学部9学科と大学院5研究科を擁する大学であり、学校法人日通学園は2023年に付属柏高等学校を設置。上野新学長は本学が掲げてきた「少人数教育」「リベラルアーツの充実」「実学主義」の教育理念に加え、就任時にSDGsとLGBTQに取り組み、「誰一人取り残さない」ための「Reborn RKU Vision」を掲げた。新型コロナウイルス感染症が世間に暗い影を落とす中、日本の物流を支えるべく創設された本学は、真に教育の質を高め、より広く深く社会に貢献するため、組織と教育の改革を推進。社会的責任を最大限果たす決意だ。

東京医療保健大学

かめ やま しゅうじ
亀山 周二

東京医療保健大学 学長



木村哲前学長の任期満了に伴い、2021年4月1日付で亀山周二理事が学長に就任した。亀山新学長は1955年香川県生まれ。医学博士。1981年東京大学医学部医学科卒業。同学部講師を経て、1999年よりNTT東日本関東病院泌尿器科部長、2013年より同院副院長、2014年から2021年3月まで同院院長を歴任。その間、2007年から東京医療保健大学医療保健学部臨床教授、2014年から同教授(非常勤)を、同年から学校法人青葉学園理事・評議員を努めた。専門は泌尿器科学。

主な著書に『泌尿器科内視鏡手術手技図譜』(共著)、『カラーアトラス新泌尿器科手術手技図譜』(共著)など。2005年に開設された東京医療保健大学は今春17年目を迎え、東京都、千葉県、和歌山県内のキャンパスに5学部と、5つの看護学科・医療情報学科・医療栄養学科の計7学科の体制となり、国内の医療保健系大学において看護学科生数は最大規模である。教育理念「いのち、思いやり、絆、愛」の4つのキーワードを基とし、一歩先の医療保健を創造する大学を築いていきたい。

東京農業大学

江口 文陽

東京農業大学 学長



4月1日付で、江口文陽教授が第13代学長に就任した。1965年群馬県生まれ、1988年東京農業大学農学部林学科(現・森林総合科学科)卒業、1993年同大学大学院博士後期課程修了、博士(林学)。日本学術振興会特別研究員、高崎健康福祉大学助教および教授を経て2012年東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科教授。学内では「食と農」の博物館長、森林総合科学科長なども務めた。社会的な活動として、日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員、ミラノ万博

日本館サポーターなどを歴任した。日本木材学会賞、森喜作賞を受賞している。

専門分野は林産化学、きのこ学、主著に『きのこの生理機能と応用開発の展望』(S&T出版株式会社、2017年)、また、大学を題材としたコミック『三枝教授のすばらしき菌類学教室』(著・香日ゆら、角川書店、2019年)では、取材協力を務め登場人物のモデルになっている。美食家。美酒佳肴を好む。創立130周年を迎えた東京農業大学がさらに飛躍するため、学史を温め新たな歩みに向けたチャレンジを牽引する。

山梨英和大学

朴 憲郁

学校法人山梨英和学院 院長
山梨英和大学 学長



東京神学大学で24年間教授職を務め、昨年4月カナダミシシヨンによる女子教育の開始以来132年の歴史をもつ山梨英和学院の院長に就任。今年4月から同学院所属の山梨英和大学の学長を兼務している。東京神学大学大学院修士課程修了(1974年)、韓国大韓イエス教長老会神学大学校大学院修士課程修了(1978年)、ドイツテュービンゲン大学神学部神学研究科博士課程修了(神学博士、1988年)。主な著書に『現代キリスト教教育学研究 神学と教育の間で』(日本キリスト教団出版局、2020年8月)『パウロ

の生涯と神学』(増補改訂版)(教文館、2021年4月)。

本学は短期大学時代を経て人間文化学部の四年制大学に改組転換。来年度で開学20周年を迎え、目下記念プロジェクトを企画中である。学校経営のネックとなる入学者募集については入試広報部を独自に設けて主力を注ぐ。また、キリスト教的人間観に基づく「専門性ある教養人・社会人・国際人」の堅実な育成に努めており、公認心理師、司書課程、英語強化、ICT、日本語教師養成、山梨地域コーディネーター養成という6種類のプログラムを導入している。

四日市看護医療大学

しばた えいじ
柴田 英治

四日市看護医療大学 学長



丸山康人前理事長・学長の任期満了に伴い、4月1日付で愛知医科大学教授から学長に就任した。1955年愛知県生まれ。1983年名古屋大学医学部卒業、1988年同大学院医学研究科博士課程単位取得退学。1995年医学博士学位取得。1993年名古屋大学医学部助手、1998年名古屋大学医学部助教授、2003年愛知医科大学助教授、2009年愛知医科大学教授。

専門分野は環境労働衛生学、産業保健。主な著書に『健康・安全で働き甲斐のある職場をつくる―日本学術会議の提言を実効あるものに―』（ミネルヴァ書房2016年・共著）、『テキスト健康科学改訂第2版』（南江堂2017年・共編著）など。厚生労働省医師国家試験委員、愛知地方労働審議会委員などを歴任。大学の母体である学校法人暁学園は本学の他に暁幼稚園、暁小・中・高等学校、四日市大学を擁し、今年度で創立75周年を迎える。コロナ禍で医療現場に大きな負荷がかかる中、建学の精神「人間たれ」を体現し、明日の医療を担う人材育成に意欲をみせる。

私立大学と社会をつなげる
大学情報検索サイト



知りたい!! 個性が光る取り組みサーチ

私立大学 1・2・3



Webサイトはこちらから ▶▶▶ <https://topics.shidairen.or.jp>

こんなときありませんか？

- ▶ 特色ある教育、最新の研究を行っている大学の事例を知りたい。
- ▶ 共同研究・開発を考えているが、実績のある大学を知りたい。
- ▶ 近隣で地域貢献、地域連携に取り組んでいる大学の事例を知りたい。
- ▶ 各大学の取り組みを一覧で見たい。

「私立大学1・2・3」は私大連加盟大学が発信した多様で魅力・特色ある活動・取り組みを、大学名はもちろん、地域や取り組み内容、実施体制、連携状況、キーワードなどから検索できます。

木越 康(きこしやすし)

大谷大学学長。'90大谷大学大学院文学研究科真宗学専攻博士後期課程満期退学。修士(文学)。'16から現職。著書『ボランティアは親鸞の教えに反するのか』など。

堀内 成子(ほりうちしげこ)

聖路加国際大学学長、博士(看護学)。'20より現職。'21より日本看護科学学会理事長も務める。主な専門分野は看護教育、アジア・アフリカでの助産人材育成、オキシトシン研究。

田中 優子(たなかゆうこ)

法政大学名誉教授。'80法政大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。修士(文学)。法政大学前総長。主著『江戸の想像力』『江戸百夢』など。

各務 洋子(かみようこ)

駒澤大学学長。国際基督教大学大学院行政学研究科行政学専攻博士課程修了。博士(学術)。専門分野は経営戦略論、グローバル経営論。'214月より現職。

中井 伊都子(なかいいづこ)

甲南大学学長、法学部教授。'91京都大学大学院法学研究科修士課程修了。専門は国際法・人権の国際的保障。'20より現職。

主著『人権保障の新たな展望』など。

小原 奈津子(こはらなつこ)

昭和女子大学学長、環境デザイン学部教授。'82東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。工学博士。'85昭和女子大学着任、'20より現職。専門は繊維材料学。

植木 朝子(うえきともこ)

同志社大学学長、文学部教授。'95お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程単位取得退学。博士(人文科学)。主著『梁塵秘抄の世界』など。

中村 充(なかもらみつる)

順天堂大学スポーツ健康科学部教授。スポーツ推進支援センター運営委員長。'91筑波大学大学院修士課程(コーチ学)修了。'05順天堂大学博士(医学)取得。

堀口 直親(ほりぐちななおちか)

関西学院大学学生生活動支援機構事務部専任参事。'88関西学院大学経済学部卒業。

陸川 章(りくかわあきら)

東海大学スポーツプロモーションセンターGM、同大学体育学部教授。'84日本体育大学体育学士取得。'85NKK(日本鋼

管)。'00CSULA男子バスケットボール部アシスタントコーチ。'01より現職。

朝比奈 茂(あさひなしげる)

法政大学人間環境学部教授。'07昭和大学医学部第一生理学教室特別研究生。博士(医学)。昭和大学富士吉田教育部を経て、'10より現職。

山田 快(やまだかい)

法政大学経済学部准教授。'14順天堂大学大学院博士後期課程修了。博士(スポーツ健康科学)。'16より現職。

栗田 大輔(くりただいすけ)

明治大学体育会サッカー部監督。一般社団法人明大サッカーマネジメント理事。清水建設(株)ソリューション営業部(スポーツビジネス推進担当)部長。主著『明治発、世界へ!』

池田 敦司(いけだあつし)

一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)専務理事。仙台大学教授。早稲田大学法学部卒。プロ野球やプロサッカー企業の経営を経て、'19より現職。

白賀 洋平(しらがようへい)

学校法人武蔵野美術大学理事長。'64大阪大

学法学部卒業。(株)三井住友銀行副頭取兼副頭取執行役員、三井住友ファイナンス&リース(株)代表取締役社長を経て、'19より現職。

多久和 英樹(たぐわ ひでき)

同志社大学入学センター所長・理工学部教授。京都大学大学院情報科学研究科数理工学専攻博士後期課程単位取得退学。博士(情報学)。専門分野は数学、偏微分方程式論など。

種子田 穰(たねだじょう)

立命館大学スポーツ健康科学部教授。同大学院大学院経営学研究科博士課程中退。経営学部教授を経て、現職。主著『アメリカンスポーツビジネス—NFLの経営学』。

児玉 俊介(こだましゆんすけ)

東洋大学経済学部教授。一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。'00より現職。

荒木 一法(あらかきかずのり)

早稲田大学政治経済学術院准教授。'99早稲田大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。早稲田大学専任講師を経て、'01より現職。主著『標準ミクロ経済学』(共著)など。

桑原 千明(くわばらちあき)

文教大学教育学部准教授。'17筑波大学人間総合科学研究科後期博士課程単位取得退学。修士(心理学)。'15より文教大学教育学部専任講師。'20より現職。

伊藤 羊一(いとうよういち)

武蔵野大学アントレプレナーシップ学部学部長。東京大学経済学部卒。Zアカデミア学長として次世代リーダー開発を行う。著書『1分で話せ』は52万部。

倉田 純一(くらたじゆんいち)

関西大学システム理工学部准教授。'83年関西大学大学院工学研究科博士課程後期課程中退。博士(工学)。'13年より医工薬機構長。文部科学大臣表彰受賞。

寺井 俊裕(てらいとしひろ)

立命館アジア太平洋大学アドミッションズ・オフィス課長補佐。東京大学大学院教育学研究科大学院経営・政策コース修士課程修了。

山尾 彩香(やまおあやか)

西南学院大学博物館学芸研究員(教育普及担当学芸員)、非常勤講師。西南学院大学大学院国際文化研究科博士前期課程修了。編著『ユダヤ教の祝祭』など。

赤羽 有紀子(あかば ゆきこ)

城西大学女子駅伝部コーチ。'02城西大学卒業後、北海道の実業団ホクレンに入社。結婚・出産を経て、'08の北京オリンピック出場。'14の大坂国際女子マラソンで現役引退し、'18より現職。

川島 葵(かわしまあおい)

フリーアナウンサー。上智大学文学部卒。'12からフリー。東海ラジオ「TOKYO UPSIDE STATION」、川島葵の東京からも歌謡曲」などに出演。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

提言『ポストコロナ時代の
大学のあり方』デジタルを活用した
新しい学びの実現』の公表

日本私立大学連盟では、ポストコ
ロナ時代を見据え、新たな大学教育の
方向性を示すべく、『ポストコロナ時代
の大学のあり方』デジタルを活用した
新しい学びの実現』をとりまとめま
した。

本提言は、デジタルを活用した新た
な学びの可能性を示すとともに、その
実現に必要な大学設置基準の見直
し、質保証のあり方等について、私立
大学の考えを提示したものです。

▼提言の内容については、私大連のWeb
サイト並びに、本誌掲載の「寄稿」をご
覧ください。

会長の動き

- 7月7日(水)
全私学連合 拡大会長会議に出席
- 7月13日(火)
第4回常務理事会、第4回理事会に出
席(ハイブリッド開催)

● 7月21日(水)

経団連 採用と大学教育の未来に関す
る産学協議会第3回幹事会に出席(オン
ライン開催)

● 7月27日(火)

役員と共に、萩生田文部科学大臣及び
赤池自由民主党文部科学部会長を訪
問。提言『ポスト



コロナ時代の大
学のあり方』デ
ジタルを活用し
た新しい学びの
実現』(以下、
「ポストコロナの
大学のあり方」
という)を手交

● 7月29日(木)

経団連 採用・インターンシップ分科会に
出席(オンライン開催)

● 8月2日(月)

記者懇談会に出席

● 8月3日(火)

全私学連合各団体の会長と共に、萩生
田文部科学大臣に令和4年度の予算・
税制改正要望を手交

● 8月5日(木)

役員と共に、河野行政改革担当大臣を

訪問。「ポストコロ

ナの大学のあり
方』を説明・意見
交換



● 8月18日(水)

経団連幹部に「ポストコロナの大学のあ
り方」を説明・意見交換

● 8月25日(水)

全私学連合各団体の会長と共に、自民
党文部科学部会にてヒアリングを受け
る。私立大学生予算をはじめ大学設置
基準の見直し、入試改革等について説明

● 8月31日(火)

擘道副会長と共に、日本学術会議の梶
田会長らと意見交換

令和3年度「第1回学長会議」 開催報告

令和3年7月6日(火)、「教育DXの将来と質保証」をテーマにオンラインにて開催。89法人123名の参加をいただきました。教育DXやオンライン教育の質保証について、また各大学の取り組み事例等について、講演およびグループ討議により情報共有・意見交換を行いました。

「令和3年度国際連携委員会 オンラインシンポジウム」開催報告

令和3年7月19日(月)、オンラインにて開催。78法人231名の参加をいただきました。文部科学省並びに外務省からの国際化政策、安全政策・危機管理等についての講演、またグループ討議により情報共有・意見交換を行いました。

「令和3年度財務・人事担当理事者 会議【第二弾】」開催報告

令和3年7月27日(火)、「私立大学の財務状況と学納金のあり方」をテーマにオンラインにて開催。75法人181名の参加

をいただきました。令和3年度は5月に同一テーマによる第一弾を開催しており、今回は第二弾となります。コロナ禍で課題が浮き彫りになった学納金や大学財務について考える機会とし、講演、ディスカッションにより情報共有・意見交換を行いました。

「令和3年度FD推進ワークショップ (新任専任教員向け)」開催報告

令和3年8月5日(木)並びに6日(金)、オンラインにて開催。39大学80名の参加をいただきました。本ワークショップは、加盟大学におけるFDの組織的推進を目的として毎年開催しています。当日は、少人数のグループに分かれて模擬授業と相互のフィードバックを行い、それぞれが教員役、学生役に立つことで、学生の学びや参画を促進する授業運営のアイデアなどについて、参加者同士で意見交換を行いました。

▼資料は、下記の私大連Webサイトをご覧ください。



私大連Webサイトにて
各種活動に関する情報を公開

<https://www.shidairen.or.jp/>



座談会 「コロナ禍の就職活動とキャリアサポート」

特集 「大学アーカイブズの現在と可能性」

小特集 「人生100年時代の学びとは—リカレント教育の将来像—」

だいがくのたから

大学点描

クローズアップ・インタビュー

同志社女子大学

東北公益文科大学

天津佳之さん(小説家、新聞記者)

編集後記

◆開催が延期・中止か—新型コロナウイルスの影響で1年延期されていた東京五輪がようやく開催された。緊急事態宣言の中、無観客で実施される異例の事態となった。しかしながら、厳しい状況下でも連日、日本代表選手たちの活躍は私たちに希望と感動を与えてくれ、トップレベルで戦うわが国のポテンシャルを実感した。

この日本代表選手の中に大学出身者が多数占めていることから、大学スポーツが日本スポーツ界の発展を支えていることは明白であろう。

本特集で紹介した通り、大学スポーツに対する見方も時代と共に変容している。課外活動としての位置づけから脱却し、大学政策としてガバナンス体制の強化やブランディング構築をはかる大学も多い。今後は競技者や指導者育成にとどまらず、グローバル化にも対応したスポーツ全般に関わるフィールドでの多様な人材育成が期待される。

大学スポーツ振興の取り組みを通じて、未来を展望するためのメッセージを社会に発信していくことが肝要である。へ広報・情報委員会大学時報分科会委員・明治大学経営企画部

広報課長 江津英昭

◆高校生から受験科目に関する相談を受ける際、文系なので数学は「捨てた」という声を聞くことがある。その場合、入学後に学びの幅が狭まる可能性があることや数学が必要となった時に相応な苦労があることを伝えるようにしているが、「入試科目として存在していない以上、「捨てる」というように強くお伝えすることに躊躇することが多かった。

しかし、本小特集での各大学での取り組みを拝読しているとその躊躇をせずに相談に乗ることができるよう感めいたものを感じる。

各大学ともに教育の質を高めるための必要性から、試験科目として数学を用意しており、入学者の成績が向上していることや多様性の確保という観点からも効果が上がっていることは非常に興味深いものであった。どのように教育の質を高めていくか、入試改革の面からも貢献できる

ことがまだまだありそうである。へ広報・情報委員会大学時報分科会委員・法政大学多摩事務部多摩事務課課長 須藤智徳

◆『大学時報』は、今号で400号を迎えた。光栄にも400号発刊の節目に編集人を担当させていただくこととなった。400号の節目にあたり、特別企画として、私立大学の将来を見据えた大きなビジョンを語っていただく座談会を企画させていただいた。

周知の通り本誌は、大学組織の教育研究・管理運営等の動向、並びに、高等教育行政に関する動向等を、加盟大学で共有するとともに、私大連を対外的に紹介する役割を担ってきた。特に私大連の一連の活動や、私大連加盟校の活動を、高等教育を取材対象とする教育系のマスメディア、並びに、文教議員を含む国会関係者、教育行政関係者等に提供することで、私大連の活動をより深くご理解いただくよう編集に配慮してきたつもりである。

今後とも、この読者に向けたリーチを、よりしっかりとしたものにするよう編集に努めていきたい。引き続き、読者の皆さまのさらなる苦言、提言、ご支援をお願い申し上げます。へ広報・情報委員会大学時報分科会委員長・上智大学文学部教授 音好宏

一般社団法人 日本私立大学連盟 加盟大学一覧

※ 大学名ABC順 / ※ } は同一学校法人 (125大学 令和3年9月20日現在)

愛知大学	金沢星稜大学	南山大学	大正大学
亜細亜大学	関西大学	日本大学	拓殖大学
青山学院大学	関西学院大学	日本女子大学	天理大学
跡見学園女子大学	関東学園大学	ノートルダム清心女子大学	東邦大学
梅花女子大学	関東学院大学	大阪学院大学	東北学院大学
文教大学	慶應義塾大学	大阪医科薬科大学	東北公益文科大学
筑紫女学園大学	恵泉女学園大学	大阪女学院大学	東海大学
中央大学	敬和学園大学	大谷大学	常磐大学
中央大学	神戸女学院大学	追手門学院大学	東京医療保健大学
大東文化大学	神戸海星女子学院大学	立教大学	東京女子大学
獨協大学	皇學館大学	立正大学	東京女子医科大学
獨協医科大学	國學院大学	立命館大学	東京経済大学
姫路獨協大学	国際武道大学	立命館アジア太平洋大学	東京国際大学
同志社大学	国際基督教大学	龍谷大学	東京農業大学
同志社女子大学	駒澤大学	流通科学大学	東京情報大学
フェリス学院大学	甲南大学	流通経済大学	東京歯科大学
福岡大学	久留米大学	西武文理大学	東洋大学
福岡女学院大学	共立女子大学	聖学院大学	東洋英和女学院大学
福岡女学院看護大学	京都産業大学	成城大学	東洋学園大学
学習院大学	京都精華大学	聖カタリナ大学	豊田工業大学
学習院女子大学	京都橘大学	成蹊大学	津田塾大学
白鷗大学	九州産業大学	西南学院大学	和光大学
阪南大学	松山大学	聖路加国際大学	早稲田大学
広島女学院大学	松山東雲女子大学	清泉女子大学	山梨英和大学
広島修道大学	明治大学	聖心女子大学	四日市大学
法政大学	明治学院大学	専修大学	四日市看護医療大学
兵庫医科大学	宮城学院女子大学	石巻専修大学	
兵庫医療大学	桃山学院大学	芝浦工業大学	
実践女子大学	桃山学院教育大学	白百合女子大学	
上智大学	武蔵大学	仙台白百合女子大学	
城西大学	武蔵野大学	昭和女子大学	
城西国際大学	武蔵野美術大学	創価大学	
順天堂大学	名古屋学院大学	園田学園女子大学	

大学時報

University Current Review

2021/9月号

第70巻400号(通巻413号)

令和3年9月20日発行

編集人 音好宏(上智大学文学部教授)

発行人 植木朝子(同志社大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
私学会館別館
電話 03-3262-8672 FAX 03-3262-4363
<https://www.shidaiaren.or.jp>

編集 株式会社 WAVE

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-20
明治安田生命大阪梅田ビル3階
〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9
KEC銀座ビル9階

松田美佐(中央大学文学部教授)
小島隆久(同志社女子大学広報部広報室長)
藤智徳(法政大学多摩事務課課長)
中山映(上智大学総務局SGU事業推進室長)
依藤康正(関西大学総合企画室広報課長)
横川修(関西学院広報室課長)
田上雅徳(慶應義塾大学法学部教授)
江津英昭(明治大学経営企画部広報課長)
兼高聖雄(日本大学芸術学部教授)
長野香(立教学院広報室長)
立岩健一(立命館大学総合企画部広報課長)
山田健太(専修大学文学部教授)
高橋慈海(大正大学魅力化推進部長)
大谷奈緒子(東洋大学社会学部教授)
鈴木宏隆(早稲田大学広報室長)
齋藤淳(日本私立大学連盟事務局)
加賀崎奈美(日本私立大学連盟事務局)
水田悠平(日本私立大学連盟事務局)
太田祐輔(日本私立大学連盟事務局)

